

生薬ニュース

近畿大学東洋医学研究所附属診療所調剤室

ジオウとは・・・

アカヤジオウ : *Rehmannia glutinosa* (ゴマノハグサ科)の根、またはそれを蒸したものを**ジオウ**と呼びます。中国の河南、浙江(せつこう)、河北、安徽(あんき)、四川省のほか、韓国や北朝鮮からも輸入しています。

【性味】《乾》甘・苦、寒 《熟》甘、微温

【薬効】《乾》清熱滋陰、涼血、潤腸通便

《熟》補血、滋陰、潤腸通便

上記《乾》と《熟》については次の項でお話します。

今月のピックアップ

じおう
地黄



左図：
ジオウの花：
赤紫の特有の筒状の花に
葉脈が深く入った葉を伴う

右図

ジオウの根を乾燥させたものを刻んで生薬と使用する



乾ジオウと熟ジオウ・・・

上述しましたように、《乾》と《熟》とは、それぞれ『乾ジオウ』と『熟ジオウ』を意味します。ではこの2者の違いについて説明しましょう。

日本薬局方におけるジオウとは、『ゴマノハグサ科の多年草アカヤジオウまたはカイケイジオウの根、またはそれを蒸したものと』と規定されています。従って、蒸さずに乾燥したものを『乾ジオウ』、蒸した後に乾燥したものを『熟ジオウ』と呼びます。ただ局方においてこの両者は区別はされていません。

	日本生薬名	局方名	中国生薬名	薬能
新鮮な根	生地黄	—	鮮地黄	
乾燥根	乾地黄	ジオウ	生地黄	清熱滋陰、涼血、潤腸通便
蒸した後、乾燥した根	熟地黄	ジオウ	熟地黄	補血、滋陰、潤腸通便

ジオウの成分と薬理・・・

新鮮な根（鮮地黄）にはカタルポールや多種のイリドイド配糖体を含みますが、乾地黄・熟地黄にはもともと含まれていたイリドイド配糖体は減少し、代わりにセレブロシドとアセトシド、単糖・オリゴ糖の増加、新しいイリドイド配糖体の生成などが確認されています。

薬理作用としては、血糖降下作用、抗血管内凝固作用、遅効性の緩和な瀉下作用などが挙げられています。

ジオウそれぞれの製法・・・

まず、肥大した根を秋頃採り、そのまま砂の中に保存したものを【鮮地黄】と呼びますこれを煎じるときには乾地黄の2倍量が処方されますが、実際鮮地黄は鮮度管理が難しいため日本での生薬としての流通はほとんどありません。次に、収穫した根を弱火でゆっくりと乾燥したものが【乾地黄】となり、外は灰褐色で断面は黒褐色に変化します。またこの乾地黄を黄酒（もち米から蒸留される酒）に一昼夜つけてからせいろで蒸し天日にさらして半乾きにする、という作業を数回繰り返し、芯まで軟化させたものを【熟地黄】と呼び、これは表面も黒光りし、独特の香りがして甘みが強くなります。熟地黄については、その加工工程で成分のイリドイド配糖体が消え、アクテオシドというフェノール性配糖体だけが変化せずに残ります。この『アクテオシド』という成分はポリフェノールの一種であり、たくさんの植物、例えば、胡麻の葉やオリーブなどにも含まれており、このアクテオシドを含むサプリメントもたくさん販売されているようです。このような製法の違いで、熟地黄は乾地黄にはない補血の作用がより強く表れるようで、そのため当診療所でも方剤により乾地黄と熟地黄の使い分けを行っています。

ジオウを含む方剤・・・

はちみじおうがん ごしゃじんきがん
八味地黄丸・牛車腎気丸
（下肢痛、腰痛、しびれ、老人の目のかすみ、
排尿困難、頻尿など）

しもつとう
四物湯
（疲労回復、月経不順、冷え症、しもやけ、
血の道症、更年期障害など）

にんじんようえいとう じゅうぜんたいほうとう
人参養栄湯・十全大補湯
（体力低下、疲労倦怠、食欲不振、寝汗、
手足の冷え、貧血）

そけいかくけつとう
疎経活血湯
（関節痛、神経痛、腰痛、筋肉痛）
※疎経活血湯は**乾地黄**、それ以外は**熟地黄**を使用

見た目では違いは分かりにくい

